


## 操業中の**転覆事故** に注意しましょう！

### 事件事例紹介

今年11月、**1名乗りの漁船**が磯場であわび漁をしていたところ、操業に熱中する余り、船尾左舷側から連続的に押し寄せる**高波(磯波)**に気付くのが遅れたため、波を船体に何度も受け**転覆**し、**乗船者は海中に投げ出**されました。

転落者は、転覆を目撃していた**付近の僚船**により無事に**引き揚げ救助**されました。



操業中も  
**波**  
に注意！

**磯波**が立っているところに近づく時は、**波**を正横から受け**ないよう**、**波の方向**に注意して操船しましょう！！

事前の気象確認だけでは**突発的な波**の予想は困難ですが、波が高い日は、操業を見合わせる決断をしましょう。

(船長コメント)

- ・漁に夢中になり過ぎて、周りが全く見えていなかった。
- ・救命胴衣を着ていたので、海に落ちても慌てずに浮いていることが出来た。

**正しい救命胴衣の着用→裏面を参照**

第二管区海上保安本部 海の安全推進室

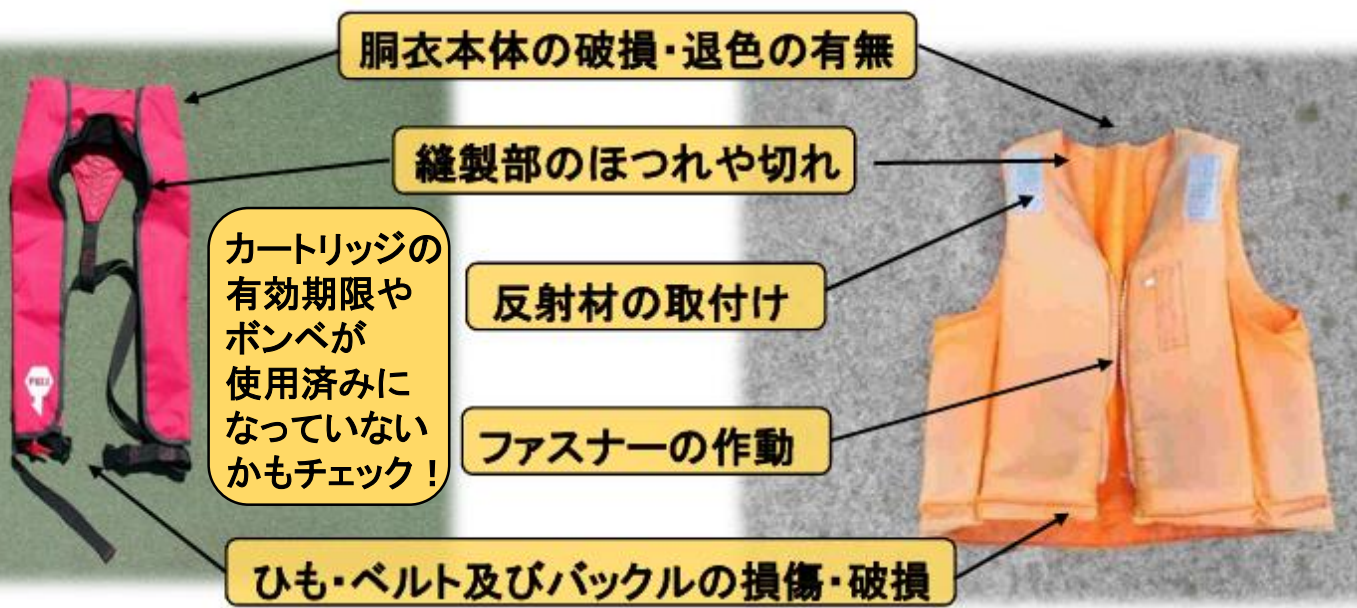
宮城県塩釜市貞山通3-4-1  
(代表) 022-363-0111  
(直通) 022-365-9609



漁船かわら版

検索

# 定期的に救命胴衣の点検を行いましょ



## 救命胴衣を正しく着用しましょ

腰のベルトがゆるいと、救命胴衣のみが浮上し、身体は沈みます。最悪の場合、落水した際に脱げます。



## 転落してしまった場合は…?

低体温症や意識不明になる前に、近くの船に知らせたり、海上保安庁へ通報しなければなりません。



防水パック入り携帯電話

**携帯電話を防水パック**に入れておけば、

**海の緊急通報118番**で

救助を求めることができます。

首から提げる防水パックは、漁具等に紐や電話が絡まないように合羽の中にしまおう等、処理をしっかりと行いましょう。

また、船に上がれない場合は、船の近くにいることで、捜索時の早期発見が期待できます。

## 令和元年 東北地方 漁船事故発生状況 (11月末現在)

青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県
18隻(3隻)	20隻(1隻)	24隻(4隻)	1隻(0隻)	2隻(0隻)	5隻(0隻)

( ) 内は11月の隻数

**死者数：2人**